

パートナーズの取組目標について

1. 目標設定の考え方

マイボトルの利用環境の改善により、府民がマイボトルを日常的に携帯するようになることを目指すという趣旨を踏まえ、①②の目標の設定について検討

- ① マイボトルの利用環境の改善 ② 府民のマイボトルの日常的携帯

2. 取組目標

指標	把握方法（案）	適切性
給水スポットの新規設置数	取組趣旨に添って設置した数を集約 <給水スポットの考え方> ・府民が水分・飲料を補充できる場所 水分：ボトルディスペンサー型にくわえ、飲み口型も対象とする 飲料：マイボトルへ飲料を補充するサービスが受けられること（有料・無料は問わない）	進捗管理：○ 取組成果の反映：△ ※パートナーズの啓発に関する取組の効果は把握できない。
マイボトルを日常的に携帯する人の割合	・おおさか Q ネット インターネット調査等を活用 ※府民 1,000 人を対象 ・イベント等においてアンケート調査を実施	進捗管理：△ ⇒母集団が調査ごとになる。 取組成果反映：△ ⇒啓発も含めたあらゆる取組みの成果を反映するものの、パートナーズだけの取組みによらない。

上記、2つの指標は、互いを補完する関係にもあることから、以下のように使いわける。

取組目標（進捗管理する）：給水スポットの新規設置数

目指すべきゴール：マイボトルを日常的に携帯する人の割合

3. 目標値について

（1）給水スポットの新規設置数に係る目標値について

1,000スポット（2025年度）

<設定根拠>

○国内の取組先行都市との比較

東京都：約700スポット

東京都水道局 スマイルボトルプロジェクトマップより推定（うちボトルディスペンサー型約30）

京都市：300スポット（令和3年度）

京都市プラスチック資源循環アクションより引用 ※マイボトル利用可能242店舗含む数

○府内1,000スポットの規模イメージ

府内小学校数は1,000程度であり、概ね1校区に1つの給水スポットが平均的に設置イメージ

(2) マイボトルを日常的に携帯する人の割合に係る目標について

80% (2025年度)

<設定根拠>

○おおさか Q ネット調査データ (2019.12)

マイボトルをしている日常的に携帯している人：28%

マイボトルを持っている人：77%

⇒ 現在マイボトルを持っている人が日常的に携帯するようになることを想定し、約80%と設定

(参考) 他機関のマイボトルに関する調査データ

マイボトルを携帯する人の割合は、概ね2~4割程度

実施機関	調査年	調査概要	結果
MyVoice	2013	10,029名	水筒の利用者は53.3%「ほとんど毎日」「週に4・5日」が各1-2割 ⇒ <u>日常的に携帯している人の割合は3割程度</u>
3R 推進団体 連絡会	2016	3,000名 <small>15歳~69歳の男女(人口 構成比に準じて割付)</small>	普段、マイボトルを持ち歩いている人は21%
横浜市	2017	1,618名	マイボトルを持っている人は66%。うち週4回以上持ち歩いている人は、52% (全体の34%)
BRITA	2019	400名 20-50代男女	マイボトル・水筒を購入(所持)したことがある人のマイボトル・水筒の <u>継続利用率は約4割</u>
NGO グリーン ピースジャパン	2019	1,000名 <small>20~69歳で各性年代の人口 構成比(東京都民)</small>	全体の6割がマイボトルを持っており、 <u>その半数(全体の3割)が週に2日以上持ち歩いている</u> と回答。
名古屋市	2019	842名	マイボトルをいつも持ち歩いている人は29% ときどき持ち歩いている人とあわせると71%

以上